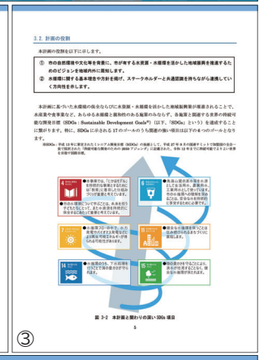
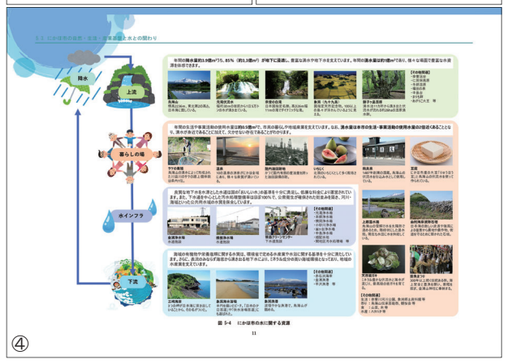




ー『にかほ市水循環基本計画』（抜粋）ー
①未来型水循環都市にかほモデル～水循環を生かす！躍動するにかほ市を創造する②にかほ市の水循環の状況③水循環基本計画とSDGsとの関わり④にかほ市の自然・生活・産業基盤と水との関わり
※『にかほ市水循環基本計画』は、内閣官房水循環政策本部の公表後、にかほ市HPに掲載します。

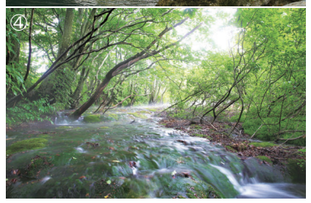
水循環を生かした躍動するにかほ市を創造する

『にかほ市水循環基本計画』では、市内全域を対象として、水循環の状況や水資源を生かした観光などの地域振興策の実施、また世界の持続可能な開発目標※SDGsの17の目標のうち関連の強い６つの目標の達成に向け、令和４年度（２０２２年度）から令和13年度（２０３１年度）までの10年間でさまざまな施策を展開していきます。

さらには、平成28年に日本ジオパークに認定（令和３年２月再認定）され、次のステージである世界ジオパークを目指している鳥海山・飛島ジオパークも「日本海と大地がつくる水と命の循環」をテーマに、水循環の維持に関して連携していきます。

そして、自然・生活・産業基盤との関わりを軸として、にかほ市の健全な水循環の持続を基本とした「未来型水循環都市にかほモデル」を構築するため、「発信」「有効利用」「付加価値」の３つの視点による循環で得られる効果を宝物（箱）として、目指すべき基本理念である「水循環を生かした躍動するにかほ市」を創造していきます。

※SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の略称で、「持続可能な開発目標」という国際社会共通の目標です。2015年９月に、150カ国を超える世界のリーダーが参加した国連持続可能な開発サミットで決められました。



ーにかほ市をめぐる水ー
①鳥海山と水田（東畑地区）
②伏流水で育った天然岩ガキ
③国指定名勝・奈曽の白瀑谷
④国指定天然記念物・鳥海山獅子ヶ鼻湿原植物群落及び新山溶岩流末端崖と湧水群（コケの群落地）

めぐる「水」新しい可能性を

日々、美しい雄姿であり続ける水循環の源である秀峰・鳥海山。豊富な水資源は伏流水として大地をめぐり、清らかな自然の造形を作り上げるとともに、わたしたち市民の生活に多くの恩恵をもたらしています。

『にかほ市水循環基本計画』の策定を機に、普段何気なく接しているにかほ市をめぐる「水」から新しい可能性を探してみましょう。

問 にかほ市企画調整部 総合政策課 企画調整班
☎0184－43－7509（直通）
mail:kikaku@city.nikaho.lg.jp

【８月１日は水の日】水循環基本法で、８月１日が「水の日」と定められました。８月１日から７日は水の週間です。

『にかほ市水循環基本計画』を策定

―現在、令和４年度の水循環に関する計画について内閣官房水循環政策本部の公表に向け情報提供中―

水循環とは

平成26年７月、「水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進し、もって健全な水循環を維持または回復させ、我が国の経済社会の健全な発展および国民生活の安定向上に寄与すること」を目的として、「水循環基本法」が施行されました。

平成30年、本市の豊富な水資源が持つ可能性や将来性から、国土交通省による「地域振興策に資する新たな下水道の役割に関する検討支援業務」の検討対象都市として、にかほ市と横浜市が選定されました。そして平成31年２月３日、観光拠点センターにかほっとで、地域における水循環の観点からより俯瞰的に地域ビジョンを検討する「若者がミズから描く未来討論会」を開催。秋田大学、中央大学、専修大学、秋田高専、地元から仁賀保高校の生徒が参加し、水循環と地域振興等の構想を検討するワークショップを実施しました。

令和元年、未来討論会の事業案を更に練り上げるため、市役所若手職員と㈱日水コン社員によるワークショップを開催。さらに令和２年に入ると、これまでの学生や若手職員による提案事業は、実施主体の在り方やステークホルダー（利害関係者）との関わりなど、さまざまな課題があり長期的な取り組みが必要であるとして、同年から令和３年にかけて水循環基本法に基づく『にかほ市水循環基本計画』を策定しました。

現在、令和４年度の水循環に関する計画について、内閣官房水循環制作本部の公表に向け情報提供しています。

ー上郷の温水路群（秋田県指定有形文化財＝建造物＝）ー
大正時代末期、地域上流で発電所建設の話があった際、その補償金を雪どけ水を温めることに使おうと地域で話し合い、日本で最初の温水路が誕生しました。以来、集落の賦役（ふえき）により、それぞれの集落から大勢の人々が出て、長岡・大森・水岡・小滝・象潟の５つの温水路を建設。今のようにバックホウやブルドーザが無い時代、全て人力で、スコップ、クワ、もっこ等を使った大変な仕事で、昭和２年から始まった工事は昭和35年まで、５路線、総延長６ｋｍにおよぶ大事業となりました。温水の効果やほ場整備事業などにより、以前は10aあたり３００kgだった米の収穫量は600kgまで拡大しました。